

現在、MUA は圧倒的に低いコストで港湾労働を請け負う「交通運輸労働者」へと業務をシフトさせ、港湾労働者の職域を侵害しようとしている使用者と闘っています。そうした使用者の代表格がパトリック社で、現在、闘いの焦点はシドニーの港（ボタニー港）となっています。

MUA は現在、シドニー港に寄港する船舶やパトリック社と契約を結ぶ船社に働きかけることを通じ、パトリック社を揺さぶる運動を展開しています。

そこで、これに該当する船社に全港湾から働きかける（メッセージを送る）ことで、船社側からパトリック社に圧力をかけて頂けないかと考えました。もし、そのような形で支援をしていただければ、大変感謝いたします。

働きかけ方（メッセージの送り方）は様々かと思しますので、それは貴組合にお任せ致します。

MUA が行った分析によると、以下に挙げた船舶が、パトリック社が運営するシドニー港と横浜および大阪の間を往来しています。

関係する船舶名と寄港日は下記の通りです：

船舶名：MSC Sao Paolo (4800 TEU)

横浜（5月8日）
マースク横浜ターミナル

大阪（5月10日）
大阪 DICT (C-10,11,12)ターミナル

船舶名：Kowloon Bay (4992 TEU)

横浜（5月15日）
大阪（5月17日）

船舶名：ER France (6088 TEU)

横浜（5月22日）
大阪（5月24日）

船舶名：Wieland (4957 TEU)

横浜 (5月29日)

大阪 (5月31日)

船舶名：ER Kobe (6088 TEU)

横浜 (6月5日)

大阪 (6月7日)

船舶名：Maersk Tema (5466 TEU)

横浜 (6月12日)

大阪 (6月14日)

船舶名：MOL Glide (5600 TEU)

横浜 (6月19日)

大阪 (6月21日)

船舶名：Wide Bravo (5466 TEU)

横浜 (6月26日)

大阪 (6月28日)

船舶名：MOL Guardian (5605 TEU)

日時未定

船舶名：Carl Schulte (5466 TEU)

日時未定

今回の争議の詳細な背景情報も添付します。

各国には考慮すべき様々な法的枠組みがあることは承知しています。パトリック社と日本の船社の関係に何らかの形で影響を及ぼす方法があるかもしれませんが。パトリック社の運営するシドニー港で働く MUA 組合員を支援するためにできる、貴組合のいかなる行動にも感謝申し上げます。

ご質問等ございましたら、私までご連絡ください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

オーストラリア海事組合 (MUA)

書記次長

ウォーレン・スミス

MUA シドニー支部のポール・マッカリアによる争議の背景情報

オーストラリア海事組合 (MUA) シドニー支部は現在、パトリック社が運営するボタニー港で大きな争議を展開しています。つい最近、MUA とパトリック社は 4 年間の協約 (企業別協約 : EA) を締結しました。長い交渉の末、この協約では、いくつかの前向きな成果を確保することができました。例えば、EA に規定された労働条件を改善するために、ストを打つ権利が確保されました。また、過去 4 年間、使用者が強硬に抵抗してきた問題への対応もなされました。

この 20 年で初めて、スト権が確保されるという協約を労働者が歓迎したのもつかの間、パトリック社が労働者に奇襲をかけ、結果として、一連の争議に突入しました。使用者は一方的に労働者の権利を侵害しました。例えば、会社が協約を期限通りに実施することを拒否し、シフト制や給与の面で労働者に不利益が出たり、労働者の配置ミスが出たり、協約違反が発生したりしました。そして、最も重要なことですが、会社は港湾労働者が港湾ターミナル内で労働する権利を否定しようとしたのです。パトリック社は交渉の中では一貫して自動化計画を否定していたにも関わらず、2012 年に協約が改定された僅か 2 か月後に、ボタニー港で自動化を実施すると発表し、この時も同様の行動を取りました。自動化によって 200 人以上の港湾労働者の雇用が失われ、そのうち 80 名強が強制解雇でした。

会社は港湾労働者の雇用機会を制限するために港湾内に柵を設け、ボタニー港の港湾ターミナルを区分化しようとしています。これはターミナルの未組

織化を狙い、安価な労働力を導入しようとする卑屈な日和見主義的陰謀と言わざるを得ません。自動化が失敗したとして、自動化導入から 2 年後に人間によるヤード業務を復活させようとしたことは、これまでパトリック社をシドニー港の市場シェアで主席企業に押し上げるために貢献してきたにも関わらず、職場を去っていった港湾労働者に対する裏切り行為です。

ボタニー港のパトリック社は、現在、キューブ・ブルックフィールド社が所有していますが、反労働者のオーストラリア政府と結託し、港湾の未組織化を図ろうと 1998 年に 2000 人の港湾労働者を解雇したのと同じ会社です。1998 年に争議に勝利してからも、パトリックによる攻撃が治まることはありませんでした。同社は自動化に従業員に対する武器として利用し、そのことがビジネス自体や会社の評判を傷つけました。パトリック社は従業員の雇用を守るための投資をするどころか、イデオロギー的に労働者を憎んでいるのです。

団体交渉と雇用確保は世界の労働運動の基本原則です。海事労働者はこれまでも労働者階級と彼らが生きる地域社会の機会拡大を目指す前進的運動に多くの連帯を寄せてきました。反動主義者や使用者や政府、彼らが所有するマスコミは、これまでも、国際労働運動を支援しようとする海事労働者の意思を挫こうとしてきました。我々はこのようなことを許してはなりません。MUA シドニー支部は今後も闘い続け、国内外の港湾労働者にとって良い結果を確保できるよう頑張ります。

これはパトリック社で働く労働者、シドニーの港湾労働者、海事労働者全体、MUA シドニー支部、世界の港湾労働者の運動にとって重要な闘いであり、我々はまた、世界中の港湾・海事労働者から支援されていると思っています。